おはらいてうの会ニュース

婦団連創立五十周年
らいてうと婦団連

理事　守谷　武子

日本婦人団体連合会は四月五日、創立五十周年を迎えました。六月十四日、「平等・平和とわたしたち―二十一世紀の課題」と題して、これまでの半世紀にわたる活動を振り返り、新たな歩みを強めていく方向を定める糧にしようと、シンポジウムを開きました。

婦団連の創立は、平塚らいてうの呼びかけで実現しました。新憲法のもと主権は国民にある、女性も男性も幸せな一生を送りたいとの願いが、敗戦からわずか五年で踏みにじられました。朝鮮戦争が始まり、日米安保条約が締結され、アメリカの一国占領に押し切られてしまったのでした。その朝鮮戦争中の一九五二年、講和・安保両条約の批准に反対していた緑風会の参議院議員、高良とみさんが、パリで開かれたユネスコ連絡委員会に出席したあと、当時渡航が禁止されていて「鉄のカーテン」「竹のカーテン」といわれていたソ連、中国に入り、さらにアジア太平洋地域平和会議準備委員会に出席して、帰国することになりました。

国禁を侵したとして政府が弾圧するかもしれない、高良とみさんを守ろうと、帰朝報告会を開いた日比谷公会堂には、あふれる女性たちが集いました。朝鮮戦争反対、日米安保条約反対、日本が再び軍事化することに反対、新憲法を守ろうと結集した、平和を願う女性たちのこの力を残そうとの、らいてうの提案で婦団連が生まれました。

50周年シンポであいさつ

1952年７月27日　日比谷公会堂前

以来女性の解放と固く結びついて、平和を守る運動に取り組んできたのが、婦団連の五十年の歴史でした。結成の翌年にはビキニ水爆事件が起こり、らいてうの呼びかけを受けた国際民主婦人連盟が世界の女性に訴えて「世界母親大会」が開かれました。

ことし八月二日、三日、秋田で開かれる「日本母親大会」は、来年五十回大会を迎えます。世界で唯一の被爆国として、核兵器廃絶、平和を守れの女性たちの熱気を感じる夏を迎え、平塚らいてうの呼びかけがいよいよ胸に響いてくる今日このごろです。

（婦団連会長）

らいてう忌に講演と映画上映

二〇〇三年らいてう忌のつどいは、らいてうの祥月命日の五月二十四日、東京ウイメンズプラザで開催されました。

小林登美枝会長は病気療養中のため欠席しましたが、メッセージを寄せ、理事の中嶌邦さんが代読しました。その中で小林会長は、らいてうがガンの苦痛をおして、亡くなる前年の一九七〇年六月、成城の町で行なった「安保条約廃棄」のささやかなデモ行進にふれ、今日の平和の危機を見通していたかのようならいてうの行動と、生涯世界の平和を切望していたその遺志を引きつぐために、この映画で心ゆくまでらいてうと対面し、対話してくださることを望むと参加者に呼びかけました。

中嶌邦さん

つづいて来賓が紹介され、羽田澄子監督の講演に移りました。

羽田監督は「いつも一人でひそかに作品を仕上げるという映画づくりをしてきたが、このらいてうの映画では全国的に募金活動が展開され、『期待しています』と声をかけられて緊張した。初めて制作発表、記者会見までして注目された。しかし、こうしたプレッシャーがかかっているからこそ一層、自由に作りたい、私がこう思うといらいてう像を描き上げたいとお願いしたが、皆さんこころよく承知して、できあがるまで黙って見守っていて下さった。よい仕事をさせていただいた」と、まず感謝の言葉をのべました。

羽田澄子監督

そして、らいてうの自伝や著作集をくりかえし読み、らいてうが、いわゆる活動家タイプの婦人運動家ではなく、またジャーナリズムで取り沙汰されるような派手な面もなく、静かで内向的な思索の人だったこと、その精神の基盤には青春時代に修業した禅があったこと。婦人解放運動や政治的な活動も、特定の主義主張に導かれて進むのではなく、自分自身の内面から湧き出した要求や、考えつくして選んだ生き方によるもので、自己に忠実だったといえるとのべました。生涯を通して、その自我のベースには禅があり、人間の女としてどう生きるかというフェミニズムの視点があった。それが必然的に平和に行きついた。らいてうの生き方に投影した時代の雰囲気も盛り込もうと近現代史を可能な限り挿入した。一昨年、映画が完成して五日後の九月十一日、アメリカでのテロ事件が起き、強い衝撃を受けたと語りました。

東京ウイメンズプラザホール

第41号　2003年7月1日　平塚らいてうの会　東京都渋谷区千駄ケ谷4-11-9-303 TEL03-3401-6383

「平塚らいてうの生涯」上映後、理事の米田佐代子さんから「らいてうの家」（仮称）建設についての提案がありました。なお、この日の午前中、同会場で第四回総会が開かれました。

▼私たちの「らいてうの家」（仮称）をつくりませんかーオープントークのお誘い
日時　7月12日（土）2時より
会場　東京ウイメンズプラザ視聴覚室
提案　「らいてうの家」プロジェクト一同
交流　参加者全員で話し合い

和歌山で上映大成功

真田　壽雄

記録映画「平塚らいてうの生涯」の和歌山での上映会は、五月二十九日の昼夜二回で計千四百人が感動を共にし、大成功で終わりました。新日本婦人の会をはじめ五十の団体が上映実行委員会に名をつらね、それを入場券の裏に刷りこむなど、宣伝態勢にも万全を期した成果が地方紙「わかやま新報」にも大きく報じられました。

二時間二十分の大作に、身も心も吸い込まれながら、日本の近現代史を背景に「ウーマンリブの元祖」（瀬戸内寂聴さんの発言）らいてうその人を「真正の人」として、よくもここまで浮き彫りにできた記録映画だと感銘しました。

もともとらいてうと和歌山とは縁が深く、らいてうの父親は紀州藩出身、姉婿となって平塚家を継いだ人も和歌山県下出身です。らいてう自身も昭和十五年に祖先の縁故由来をたずねて奥村博史といっしょに、和歌山県内へ足をはこんだことがあります。

それにまた私自身も、らいてうさんとふしぎなご縁でつながっているのです。私の真田姓が語っているように、わが家の初代は信州松代藩の出身です。松代藩に真田六郎左衛門光幸という人がいて、徳川綱吉の治世に松代藩をはなれ、和歌山の現住地に移ってきたということで、過去帳によると私は九代目にあたります。真田姓は長男だけが継ぐならわしになっていたり、墓は代々つくらないことになっていることなども、徳川家にたいするはばかりから生まれたものかもしれません。

私はそんなこともあって、信州真田町には今までに二度ほど足をはこび、自分の家系のなんらかの情報が得られるかと調べたことがありました。その真田町地籍に「らいてうの家」建立の計画が進んでいることを知り、たいへんうれしく思い、この機会にらいてうの会へもよろこんで入会いたしました。

「らいてうの家」建設の実現を、和歌山の地での映画成功を機縁として心から願っております。（ゆたかで住みよい和歌山県をつくる会代表委員）

シリーズ らいてうの周辺

市川房枝展を見て
らいてうの生原稿

市川房枝の生誕百十年を記念した特別展「女性と政治―いまに生きる市川房枝」が、婦選会館で五月十五日から三十一日まで開かれていた。国会図書館にいらした山口美代子さんが準備なさったもので、非常に充実した内容だった。まず感じたことは、市川房枝さんは運動家であったが、資料の保存になみなみならぬ気配りをした方だということである。運動をする人々は現在の課題とこれからに注意が集中し、すでに過ぎたことに対してはあまり関心を持たないのが一般的である。しかし市川さんは小さなビラ一枚でも実に丹念に保存しておられた。それが今日では歴史を研究する人にとってはもちろん、一般の女性たちにとっても貴重な宝物となって、婦選会館に保存されている。

なかでも私の目をひいたのはもちろん、らいてうの書簡などである。らいてうと市川房枝は新婦人協会で協力して活動した。一時疎遠になったが、戦後その友情は復活し、房枝が公職追放になったときには追放取消運動に協力し、婦選会館の理事にも就任している。婦選会館の入口の壁には、らいてうの「元始、女性は太陽であった」と房枝の「婦選は鍵なり」のレリーフが並んではめ込まれている。

一九五〇年六月、らいてうが講和条約締結を前に「非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」を野上弥生子らと連名でダレス特使に提出したことは有名であるが、その草稿が市川房枝のところに保存されていた。当時房枝は追放の状態にあったので署名こそしなかったが、陰で熱心に協力している。らいてうの草稿に房枝が加筆している生の原稿が展示されているのを、感慨無量で見入ってしまった。

この特別展には、戦後対策婦人委員会の申し合わせや名簿、初期の衆参選挙女性候補のポスター、堺ため子、相馬黒光ら著名人からの書簡など、珍しい資料が展示されていた。婦選会館での展示を終えたあと、千葉、栃木、庄原市、静岡などで巡回展示が予定されている。

（理事　折井美耶子）

〔事務局日誌〕

5月8日　第5回事務局会議
5月13日　第7回理事会開催
5月14日　2002年度会計監査を受ける
5月15日　記録映画実行委員会に出席
5月24日　午前、第4回総会開催
5月24日　午後、2003年らいてう忌　於東京ウイメンズプラザホール
5月31日　あずまや高原自治会総会に出席
6月8日　山形県母親大会で米田副会長が会の宣伝
6月14日　婦団連50周年シンポジウムに参加
6月20日　第1回事務局会議

▼**記録映画「平塚らいてうの生涯」の自主上映**

フィルム使用料は一回上映二十万円、一日二回上映三十万円（消費税込）、16ミリ版二時間二十分。申し込み・問い合わせは普及センター☎〇三（三四四五）五八三三、FAX〇三（三四四五）五六一八へ。

▼**らいてうの会ホームページ**

http://homepage3.nifty.com/raichou/